

4026人から
点出品

第49回医家書道展が、平成二十一年十月二十日(火)より十月二十五(日)まで東京銀座画廊美術館8階において開催されました。

白紙から手作りの苦勞

ご挨拶 小口 英世

書道部会員をはじめ、賛助会員の方を含め二十六人の方から、四十点の出品をいただきました。

図らずも、書道部部长などという大役を仰せつかってしまい、どうしたものか不安と戸惑い一杯のスタートとなりました。

事務局の縮小に伴い、すべてが白紙の状態でしたので、何もかも手作りでやる以外に術はないと、覚悟をきめてはじまりましたが、半端な忙しさではありませんでした。

新関先生、日本医事新報社の梅澤さん、それに高嶋さんと4名のタックルを組んで、何とか今回の書道展開催にごぎつせることが出来ましたのも、出品してくださった部員の先生をはじめ多くの賛助会員のご協力あつての賜物と深く感謝いたしております。

加瀬幸雄先生をはじめ、飯田文良先生、酒井敏夫先生、竹内栄樹先生、田村豊幸先生などご高齢にもかかわらず、ご出品いただき、若い我々にさらなるお励ましをいただきました。遠く三重県から、墨の香りにとざされた素晴らしい作品をご出品していただいた大西

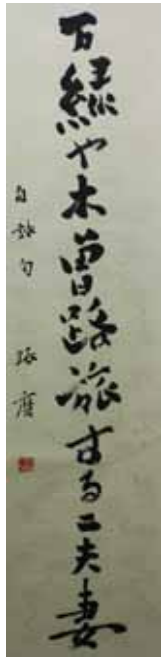
ことしも大作・力作がそろいました

正一先生にも心から御礼申し上げます。
 次年度第五十回記念展にもよろしくお
 願いたします。

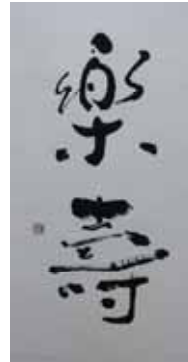
懇親会は、午後四時から、美術館四
 階のイタリアンレストラン「ドゥエ・
 アンジェリー」で行い(写真⑤)、楽し
 いひと時を過ごし午後六時散会いたし
 ました。以下に作品を紹介します。
 (原則50音順 敬称略、一人1点)



馬緯雲詩
 飯田 文良
 (格城)



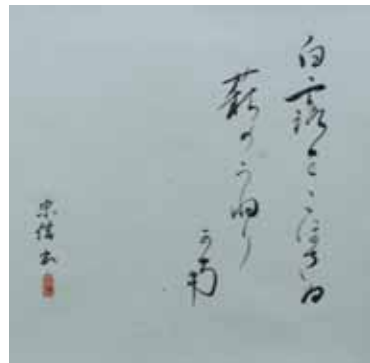
自詠俳句
 秋葉 琢磨



樂 壽
 飯島初枝
 (東華)



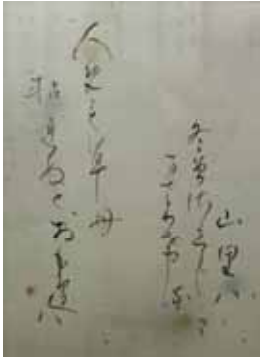
自詠の句
 大西 正一(石聲)



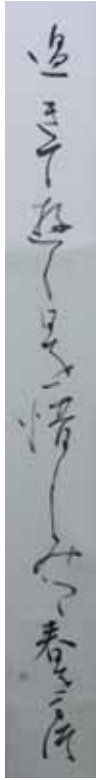
一茶の句
 梅澤 信子



愁 加瀬 幸雄
(東垣)

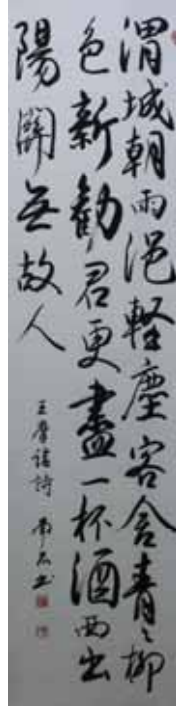


百人一首
(源宗千朝臣)
加藤 晃子
(青苑)

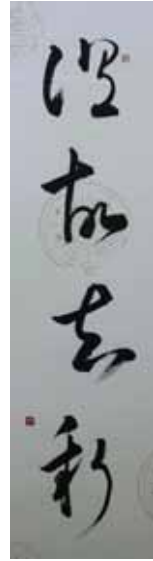


虚子の句

小口 明子



王摩詰詩
小口 英世
(南石)



温故知新
大原 政子

表紙の言葉
小口 英世
(孝ヶ崎市)

「和顔愛語」

「かつて、一度だけ『書』が表紙になったことがあるし、書道部の部長さんに、新しくなられたことだから」と、編集担当からお誘いを受けました。そこで昨年の医家書道展に出品した「和顔愛語」私の座右の銘の一つでもある、この語の扁額を表紙に掲載させていただくことにしました。

和顔は穏やかな顔、愛語は相手を慈しむ言葉です。いわゆる「無財の七施」の中にこの言葉が出ております。たとえ何もなくても、この心を持つていれば、大変素晴らしい、充実した人生を送ることが出来るそうですので、日々この四文字を胸に生活しております。